3.11 東日本大震災　あれから1年

下野市には111名の避難者がいます

（平成24年2月2日取材当日現在）

下野市に避難された方の交流の場を作ろうと、市民ボランティアが中心となりできた「あじさいお茶会（代表　石嶋惠子さん）」。現在も継続的に活動を続け、避難者の情報共有の場となっています。

避難者交流会「あじさいお茶会」の呼びかけ人となった佐々木正教さんに会の活動状況などの話を聞きました。

市：震災時は、どのような状況だったのですか。

佐々木：私は、福島県南相馬市の住民で、自宅は原発より20㎞圏内にありました。津波により娘の夫やその親を失いました。地震発生の翌日、原発事故により避難所が警戒区域になり、隣の町30㎞圏内の娘宅へ避難しました。その後、30㎞圏内も避難区域になり、3月17日に親族10人で親戚が住む下野市に避難してきました。そんな中、ボランティアの方々と出会い、会を発足することになりました。

「あじさいお茶会」呼びかけ人の佐々木正教氏（南相馬市より避難）

市：震災から1年が経過しましたが、今振り返って思うことはありますか。

佐々木：自宅へ早く帰りたいと毎日願い続けた1年でした。長いようであっという間の1年でした。

市：会はいつ発足しましたか。

佐々木：昨年の6月です。下野市の石嶋さんをはじめ、ボランティアの方々や市の協力で組織できました。

市：「あじさいお茶会」の活動内容を教えてください。

佐々木：現在、下野市には48世帯、111人の方が避難しています。活動には、赤ちゃんから80歳代までの20～30名が参加しています。参加者には、同様の活動団体がないため、宇都宮市、野木町、古河市に避難した一部の方も来ています。月2回程度交流会を開催し、国、県の施策や市から提供された情報の確認、お茶、お菓子を囲みながら悩みや現状を話し合うなどメンバー相互の交流を行っています。また、先日、県域の組織「とちぎ暮らし交流集会」にも参加し情報の共有を図ってきました。

市：行政に対してご意見をお聞かせください。

佐々木：放射能除染の早急な実施と賠償問題を進めてもらいたいです。市に対しては、上下水道料金、お風呂施設の無料利用、おむつの支給など対策には大変感謝しています。今後も継続してもらいたいです。

ハクチョウが北へ帰る季節となりました。私たちも早く家へ戻りたい気持ちでいっぱいです。

先の見えない現状に避難者は、たくさんの不満や苦労を負っています。震災前の状態に戻るまでには、まだしばらく時間がかかりそうです。そのような中、私たちは思いやりの心と交流で避難されている方々を応援していきたいです。

小さな子供を持つ親たちの、子育ての情報交換の場ともなっています。

この日は福島県から栃木県に出向している県職員が話し合いに参加しました。